

ZANDEN Model 120 の展開(84)
ーベートーヴェンを聴き直す(19)ー

1. 始めに

前報(83)に引き続き、これまで聴いてきたベートーヴェンの盤を聴き直していきます。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベートーヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベートーヴェンのピアノ協奏曲を選定しました。

LONDON SLA1047

ピアノ協奏曲第 5 番変ホ長調作品 73 「皇帝」
ウラディミール・アシュケナージ (ピアノ)
ゲオルグ・ショルティ指揮シカゴ交響楽団

PHILIPS X-7694

ピアノ協奏曲第 5 番変ホ長調作品 73 「皇帝」
アルフレッド・ブレンデル (ピアノ)
ベルナルド・ハイティンク指揮ロンドンフィル

CBS SONY SOCH-15-16

ピアノ協奏曲第 5 番変ホ長調作品 73 「皇帝」
ルドルフ・ゼルキン (ピアノ)

レオナルド・バーンスタイン指揮ニューヨークフィル

上記は下記で報告しています。

[アナログ再構成後の活用\(35\)](#)

[アナログ再構成後の活用\(36\)](#)

[アナログ再構成後の活用\(37\)](#)

3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

LONDON SLA1047 のアシュケナージ盤は、DECCA、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

アシュケナージの演奏は、潑瀾とした演奏ですが、もう少しベートーヴェンの解釈に緻密な洞察が欲しいところです。一方、ショルティ指揮シカゴ交響楽団は、ショルティらしい豪快なベートーヴェンです。

PHILIPS X-7694 のブレンデル盤は、RIAA、正相、第4時定数 High で聴いていきます。

ブレンデルの演奏は、極めてオーソドックスで豊かな響きを持たせています。ハイテック指揮ロンドンフィルも同様にゆったりと豊かな響きでバックを支えます。

CBS SONY SOCH-15-16 のゼルキン盤は、Columbia、正相、第4時定数 Low で聴いていきます。

ゼルキンの演奏は、きらきらと輝くようで豊かな響きを持たせています。バーンスタイン指揮ニューヨークフィルも思ったより派手さはありませんが、小気味よいテンポのオーケストレーションでバックを支えます。

4. まとめ

これまでの試聴同様、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上